

江戸時代の環伊勢湾経済圏と特産物流通

日本福祉大学経済学部 曲田浩和

はじめに

1 環伊勢湾経済圏とは

1) 伊勢湾（伊勢湾＋三河湾）周辺部の海に面する地域と河川でつながる地域を範囲

→愛知・岐阜・三重・静岡・長野

→尾張・三河・美濃・飛騨・遠江・信濃

2) 古くからの産業の発展地域

ものづくりの源流：農林水産業＋窯業・木綿業・醸造業

衣食住の人々の生活を支える地域

衣：伊勢木綿・尾張木綿・三河木綿・遠州木綿＋絹／紡織機→機械工業

食：醸造業（酒・味噌・醤油・たまり・酢・みりん）

→製麺（そうめん・きしめん・うどん）／製麺機→機械工業

→林産加工品から漆器／桶・樽（醸造道具）

→窯業から瀬戸物

住：林業（ヒノキ・スギ）→建築材

→木曾ヒノキ：木曾川・錦織綱場（岐阜県八百津町）

裏木曾（飛騨）ヒノキ：飛騨川・下麻生綱場（岐阜県川辺町）

各綱場→（木曾川）犬山（筏の組み直し）→（筏川）→熱田

○名古屋：材木加工業がさかんな場所

桑名：材木業がさかんな場所：六華園

→木曾ヒノキ：矢作川・豊川

矢作川→百々・古鼠（豊田市）で筏に

…【画像】

窯業：瓦・タイル・テラコッタ（装飾）

2 大量生産システムの構築－地産地消からの脱却

1) 大量消費地の確保

①名古屋及びその周辺；20万人弱

②伊勢：日本一の参詣地→行楽

③江戸（100万人の大都市）

諸大名の本拠地は尾張・三河：三河者の生活スタイル

2) 輸送力：廻船

①伊勢湾と江戸をつなぐ廻船の重要性

尾州廻船：江戸廻船と諸国廻船

常滑：伊勢湾内の奥部：木曾川地域との関係／名古屋・桑名・四日市

*伊勢茶・伊勢水油(菜種油)・切干大根・材木・伊勢油・酒・木綿・材木・岐阜傘など
開港以降：茶の流通がさかん
常滑湊：常滑焼／上方←→伊勢湾←→関東 …【画像】

【史料1】常滑船船主瀧田金左衛門家文書

口上

一菰野茶問屋様初荷之所、増運賃附早船に積入候様御申附、此度積入申候御荷物壺壺勿箱
五分増運賃入津之砌、御渡可被下候様奉願上候

酉(文久1・1861年)四月廿二日夜 徳田屋武兵衛頼

御茶問屋衆中様

【史料2】石造常夜燈 天保十一年在銘 一对 多度神社

『多度町史』民俗 多度町教育委員会 2000年

永代常夜灯 海上安全

願主

尾州 清福丸徳藏 勢徳丸七太郎 勢宝丸弥七

半田 久宝丸武平

江戸 水油問屋中 同仕入問屋中 干鰯問屋中 瓶問屋中

(浦)

相賀浦 宮原屋治兵衛 江戸屋六兵衛

富田 油屋武助 油屋平治郎 伊倉屋店 中島文五郎 田屋仙九郎 山七屋宗七

稲葉三右エ門 山中伝四郎 山北屋万五郎 小林屋与平治

天保十一年(1840年)九月

3) 地域間交流：川船・湾内廻船と湊の整備

桑名湊：木曾川

→熱田湊・四日市湊

平坂湊(西尾市)：矢作川

→鷺塚湊(碧南市)

下地(豊橋市)：豊川

→前浜(豊橋市)

矢野(津市香良洲町)：雲出川

→内田(住田屋)豊吉 尾張国知多郡内海の廻船船主内田佐七の出店

津藩の御用達(津藩蔵米)

香良洲大橋常夜灯：中埜又左衛門・内田佐七の刻銘あり

3 特産品生産と海・川・湊

1) 味噌

- ①三河産大豆・麦＋関東・東北産大豆・麦
廻船で江戸・神奈川・浦賀から大豆・麦を購入して運ぶ。
- ②饗場塩（西尾市吉良）＋瀬戸内海塩（赤穂・斎田・新斎田）
- ③川船で春麦の原料を運ぶー早川家文書ー

【史料3】

中畑圓助船送り状之事

平古

一大麦九俵也 但し四斗入

松印

右辻入津之砌改御請取、急々御春揚可被下候、以上

午六月五日

八丁

早川忠三郎(印)

平藪

宇野善右衛門殿

車屋御支配衆

* 地域全体で産業を支えるシステム

廻船湊（平坂）・川船（中畑）・味噌蔵（八丁）・春米場（平藪・九久平）

2) 桑名米

伊勢：桑名藩蔵米・北長島米・治田米・忍蔵米

美濃：美濃加納米・美濃大垣米・高須米

尾張：尾張米

→酒米として適している桑名米

【史料4】知多郡小鈴谷村盛田家文書

乍恐奉願上候御事

私共儀代々当村に居住仕罷在為渡世、酒造商売仕来候、右酒近村々江小売に仕候得共、年々懸ヶ損相立申候故、当春より勢州桑名表江売渡申候、就夫酒代之義米にて受取呉候程、左候得ハ勝手も宜敷旨ニ而桑名表より追々申越候、全体桑名米之義ハ当村之水に應シ、酒のたり多ク御座候由ニ付、旁以右桑名米受取申度奉存候間、何とそ私共兩人江米高四拾石入津御免被成下候様、乍恐奉願上候、御影を以酒造相減不申候得は、夫々身上取続御年貢御役銀無恙御上納仕候義に御座候間、御憐愍を以被為聞召分願之通被為 仰付被下置候ハ、難有仕合奉存候、以上

子(安永9・1780) 九月

知多郡小鈴谷村庄屋

酒屋 久左衛門

同 権六

飯沼定右衛門様

【史料5】『鵜殿村史』史料編 鵜殿村 1991年

沖上リ口上

一、尾州内海五郎左衛門船沖船頭栄次郎乗り六反帆五人乗り宗旨は浄土宗にて御座候、此度勢州桑名にて米三百七拾俵買積仕、先月十八日に同所出帆仕、段々乗り登り、同廿八日・御当地勝浦へ入津仕、暫ク同所・滞船、…(中略) …

尾州内海五郎左衛門船

沖船頭 栄次郎判

戊四月 同楫取 利平次判

(安永7年・1778年) 水主 長助判

同 甚助判

同 久兵衛判

鵜殿浦方庄屋

利兵衛殿

同 肝煎

久之右衛門殿

3) 桑名から大垣への鉄輸送

①大坂の鉄問屋・鉄屋太兵衛から桑名の廻船問屋

→鉄の産地は中国地方

②桑名か桑名の川船(半蔵船)で、揖斐川・杭瀬川経由、大垣へ

参考)川船の拠点:船付・烏江・栗笠(濃州三湊)

【史料6】

ヤマ彦 升 和助船送り状事

運賃

九 一上(カネ)秋印鉄 貳拾束 拾貳貫目入

一本(マルシ)印同 拾束 同

一(カネ)秋 印同 九拾束 同

運賃 貳百廿四匁六分四厘

〆百廿束也、美濃大垣久瀬川角屋彦三郎渡り

右之通積入申候間、御地着岸之砌御改御受取可被下候、以上

酉三月廿日

鉄屋太兵衛 従大坂

勢州桑名

内田忠四郎殿

(裏書)

「 当地半蔵藩
表書通入津之砌御改御受取可被下候
元運賃船頭え時期渡し済
此懸り金壹分壹朱ト四百文
舟町川通御払川役三百七拾弍文
運賃五貫文
四月廿五日
内田忠四郎(印)
(ヤ)彦印まで 」

* 桑名は木曾三川で美濃・信濃とつながる、川からの荷物を海へ、海から荷物を海へ
多くの商品の集積地、内陸向けの鉄が廻船で運ばれ→桑名が金属加工の町

おわりに

伊勢湾内廻船：コゴシ（小越）
常滑焼・尾張の醸造品を四日市・桑名へ
東海道と海の結節点：四日市・宮（熱田）→廻船と飛脚

[主な参考文献]

- 村瀬正章『近世伊勢湾海運史の研究』法政大学出版局 1980年
川合彦充「南知多の海運と戎講組合」『南知多の廻船文書』南知多教育委員会1982年
斎藤善之「解題」『尾張国知多郡内海内田佐七家文書目録』
日本福祉大学知多半島総合研究所 1993年
斎藤善之『内海船と幕藩制市場の解体』柏書房 1994年
鈴木えりも「近世末期三重県下の商取引～内海内田佐七家文書の紹介～」
『三重の古文化』75 1996年
石原佳樹「内海船と四日市をめぐる流通」
『知多半島の歴史と現在』No.8 日本福祉大学知多半島総合研究所 1997年
曲田浩和『大坂登り下り船問屋と内海船』
『知多半島の歴史と現在』No.11 同上 2001年
石原佳樹「幕末期勢州四日市湊における干鰯・粕取引の一形態」
『知多半島の歴史と現在』No.12 同上 2003年
村瀬正章『伊勢湾海運・流通史の研究』法政大学出版局 2004年
高部淑子「瀧田家文書にみる伊勢の諸湊」『知多半島の歴史と現在』No.21 2017年